



「キリスト教主義教育の可能性と実践—well-beingと共に生きるために」プロジェクト

当事者研究の誕生

—これからのソーシャルワーク実践の新たな地平

従来のソーシャルワーク実践が「支援する側(専門職)」と「支援される側(クライエント)」の二項構造を前提とする中で、当事者研究は、この構造を根底から問い直し、「援助する/される」関係から、「ともに探究する」関係へと変え、クライエントが自らの「生きることへのリアリティー」に関心を寄せる「研究者」として、主体的かつ協同的に状況を考察し、歴史的、社会的、実存的な文脈の中で理解しようとする発想を提案し、国際的にも関心を呼んでいます。このたびは、当事者研究の源流を辿りながら、これからのソーシャルワーク実践を考える一つの手がかりとなることを願っています。

2026年1月15日(木) 13:20

関西学院会館 レセプションホール 15:00

要申込
無料

むかいやち いくよし
講師 向谷地 生良氏

1978年より北海道日高の総合病院精神科ソーシャルワーカーとして勤務、1984年、「浦河べてるの家」を設立し2003年より北海道医療大学教員、2021年に名誉教授、社会福祉法人浦河べてるの家理事長に就任。

●著書「べてるの家の非援助論」「技法以前」(医学書院)・「べてるの家から吹く風」(いのちのことば社)他多数



申し込み方法 2026年1月9日(金)までにホームページの申込フォームもしくはお電話にてお申込みください。



お問い合わせ 関西学院大学 キリスト教と文化研究センター(RCC)
TEL.0798-54-6019